

通し番号	3948
------	------

分類番号	14-7B-22-20
------	-------------

(成果情報名) 平成13年度鶏の組合せ検定
[要約] 国産鶏は、卵黄重及び卵黄重比率で対照鶏より優れていたが、ハウユニットではやや劣っていた。一方、産卵率、パック卵比率などの生産性では対照鶏が優れていた。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産研究所 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

わが国の国情にあった優良実用鶏を作出するため、国と各県が連携して、系統造成、系統間交雑種の能力検定の業務を実施する。このうち、当所では系統間交雑種の能力検定を実施する。

[成果の内容・特徴]

1. 供試鶏は、1区:ボリスブラウン(対照鶏)、2区:MA×Y8、3区:S52×L17、4区:S52×Y8、5区:Y8×L17、6区:Y8×XSを用いた。
2. 卵黄重は、対照鶏より全ての国産鶏で大きく有意な差が認められた(表1)。
3. 卵黄重比でも、対照鶏に対して2、3、4区で有意に重かった(表1)。
4. 産卵率の推移では、ほぼ全期間にわたって対照鶏が優れていた(図1)。
5. パック卵生産比率の推移では、42週齢以降、対照鶏は国産鶏に比べて高位で推移しており、パック卵の生産割合が対照鶏で多かった(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 外国鶏と生産性及び卵質の比較をしながら国産実用鶏の能力向上を行っていく。
2. 本県に適した系統の組合せを検索していく。

[具体的データ]

表 1 成鶏期の成績(20～80週齢)

鶏種 項目	1区	2区	3区	4区	5区	6区
	ホリス ラウン	MA×Y8	S52×L17	S52×Y8	Y8×L17	Y8×XS
飼料摂取量 (g)	110.2 ^a	111.3 ^a	111.3 ^a	111.7 ^{ab}	112.4 ^{ab}	113.7 ^b
産卵率 (%)	85.1 ^a	80.7 ^b	81.2 ^b	82.2 ^{ab}	82.4 ^{ab}	81.7 ^{ab}
平均卵重 (g)	61.7 ^a	64.4 ^b	64.8 ^b	65.4 ^b	63.9 ^b	65.5 ^b
日産卵量 (g)	52.4	51.9	52.5	53.7	52.6	53.6
飼料要求率	2.11	2.16	2.13	2.09	2.15	2.15
ハウユニット	86.79	82.58	83.24	82.59	83.99	84.50
卵殻強度 kg/cm ²	3.97	4.15	4.04	4.40	4.36	4.26
卵殻厚 (mm)	0.341 ^a	0.384 ^d	0.369 ^{bcd}	0.366 ^c	0.373 ^{cd}	0.353 ^{ab}
卵黄色	9.9	9.7	9.8	9.8	9.7	9.9
卵殻重 (g)	5.7 ^a	6.4 ^d	6.2 ^{cd}	6.4 ^d	6.1 ^c	6.0 ^{bc}
卵黄重 (g)	15.2 ^a	17.2 ^d	16.2 ^{bc}	17.4 ^d	15.7 ^{ab}	16.7 ^{cd}
卵白重 (g)	40.1	42.8	40.5	42.3	41.4	43.2
卵殻重比	9.2 ^{ab}	9.7 ^{bc}	9.9 ^c	9.6 ^{bc}	9.6 ^{bc}	9.2 ^a
卵黄重比	24.8 ^a	26.0 ^{bc}	25.8 ^{bc}	26.3 ^c	24.8 ^a	25.4 ^{ab}
卵白重比	66.0 ^b	64.4 ^a	64.3 ^a	64.1 ^a	65.5 ^b	65.4 ^b

卵質成績は43週齢時

異符号間に有意差あり(P<0.05)

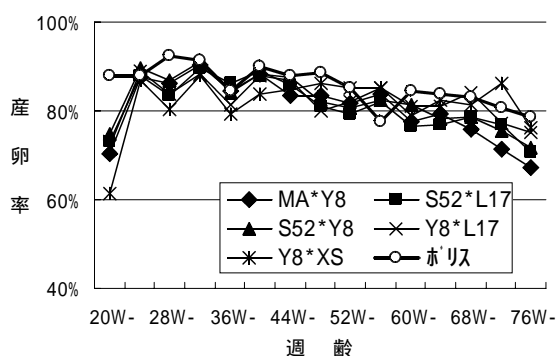


図 1 産卵率の推移

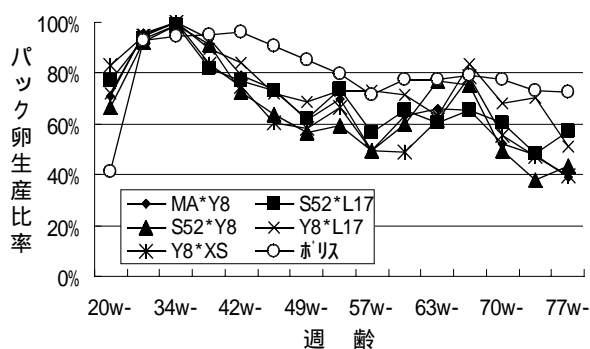


図 2 パック卵生産比率

[資料名] 平成14年度試験研究成績書(繁殖工学・養鶏)

[研究課題名] 優良種鶏の組合せ検定

[研究期間] 平成13～14年度

[研究者担当名] 引地宏二・青木 稔・亀井勝浩